

島根県における結腸癌・直腸癌 術後補助化学療法の現状

—アンケート調査報告—

すぎ 杉	もと 本	しん 真	いち 一 ¹⁾	やま 山	もと 本	てつ 徹 ²⁾	すぎ 杉	やま 山	あきら 章 ³⁾		
くら 倉	よし 吉	かず 和	お 夫 ⁴⁾	すず 鈴	き 木	けん 賢	じ 二 ⁵⁾	わた 渡	なべ 部	ひろ 裕	し 志 ⁶⁾
なが 永	い 井		さとし 聡 ⁶⁾	いがらし 五十嵐	まさ 将	ひこ 彦 ⁷⁾	はやし 林		ひこ 彦	た 多 ⁷⁾	
さ 佐	とう 藤	よし 仁	とし 俊 ⁸⁾	の 野	そう 宗	よし 義	ひろ 博 ⁹⁾	きり 桐	はら 原	よし 義	まさ 昌 ¹⁰⁾
きし 岸	もと 本	ひろ 弘	ゆき 之 ¹¹⁾	おか 岡	もと 本	えい 栄	すけ 祐 ¹¹⁾	た 田	しま 島	よし 義	つく 証 ²⁾

キーワード：結腸癌・直腸癌，術後補助化学療法，島根県アンケート調査

要 旨

結腸癌・直腸癌術後補助化学療法の現状について島根県の病院に勤務する消化器外科医にアンケート調査を行った。Stage の再発ハイリスク因子として、リンパ管侵襲、脈管侵襲を上げる医師が多かった。結腸癌・直腸癌に対する薬剤選択性はほぼ同様の結果であった。Stage (再発ハイリスク群)/ a に対しては大腸癌治療ガイドラインの記載に準じた経口 5FU 系薬が中心に選択されていたが Stage b に対しては新規抗癌剤であるオキサリプラチンを含む FOLFOX・XELOX 療法の比率が約半数を占めた。ガイドラインでは推奨薬剤の選択は複数記載されているが実臨床における大腸癌補助化学療法として Stage 別で異なる薬剤を選択する意向を伺うことができた。今回のアンケートは実際の診療結果ではなく大腸癌診療における消化器外科医の意識調査である。機会があれば診療結果についても調査したいと考えている。

Shinichi SUGIMOTO et al.

- 1) 島根県立中央病院外科
- 2) 島根大学医学部消化器総合外科
- 3) 出雲市立総合医療センター 4) 松江市立病院
- 5) 町立奥出雲病院 6) 浜田医療センター
- 7) 益田地域医療センター医師会病院 8) 松江赤十字病院
- 9) 大田市立病院 10) 済生会江津総合病院
- 11) 益田赤十字病院

連絡先：〒693-8555 出雲市姫原4丁目1-1

はじめに

新規抗癌剤の登場や複数の臨床試験の結果を受け、大腸癌術後補助化学療法の様相が大きく変化してきている。大腸癌治療ガイドライン (2010年度版)¹⁾においては補助化学療法としての推奨薬剤